



東京大学先端科学技術研究センター

東京大学先端科学技術研究センター(先端研)は、1987年に設立された東京大学で最も新しい附置研究所です。従来の大学の殻を破る研究・教育体制の推進拠点として文理融合を実践し、「我が国初」と呼ばれる多くの新制度や取り組みを生み出しています。最大の特徴は、研究者や研究分野の多様性と、臆することなく挑戦する文化にあり、医学・理工系の先端研究から社会科学やバリアフリーなど社会システムに関わる研究まで、40以上の研究室・研究部門が新領域を開拓し、基礎から応用、社会実装を積極的に展開しています。また、東大附置研究所で唯一、博士後期課程(先端学際工学専攻)を有し、イノベーションを生み出す人材育成にも取り組んでいます。



東京大学 先端科学技術研究センター
Research Center for Advanced Science and Technology
The University of Tokyo



K O Y A S A N CONFERENCE 2023 高野山會議

科学・芸術・宗教の対話が見つめる
一二〇〇年後の世界とは。



主催者挨拶



東京大学先端科学技術研究センター 所長
先端科学技術研究センター 教授

杉山正和

感染症の脅威が和らぎ、社会は再び動き出しました。しかし、気候変動や生物多様性の喪失など、地球が直面する問題はさらに深刻化しています。加えて、社会の分断が再び顕在化し、不幸な争いが人々のいのちを脅かしています。

これらの問題は、他者を支配しようとする人間の欲求に根差しているといえましょう。支配欲の対象は、他の人間のみならず自然環境にも及んでいます。かけがえのない地球を将来の世代につなぐために、私たちの周囲のあらゆる存在の価値と多様性を認め、地球上のすべてが調和して共存できる社会への移行が求められています。

科学技術は、自然界の支配原理を理解して制御しようという人間の欲求をもとに進化してきました。そこでは、論理的な定式化と対話が重要でした。万物の調和と共存を目指すこれからの社会には、論理に加えて、空間と時間を超えた他者への想像力や共感が求められるのではないのでしょうか。私たち先端科学技術研究センターは、学問の垣根を超えて社会課題の解決を目指す研究者が集まった、世界有数の多様性に富んだ集団です。そこで重視されるのは、理性と感性の両面での対話、感動を共有した協働、すなわち「こころ」のつながりです。万物の調和と共存を目指す哲学を育んだ高野山の環境で私たちの感性を高め、持続可能な社会を実現するための多様な方向性を議論し、世界に発信しましょう。

高野山会議 2023

2023年7月13日～7月16日 於 金剛峯寺 / 高野山大学 等
主催：東京大学先端科学技術研究センター
共催：和歌山県 / 高野町 / 高野山真言宗総本山金剛峯寺 / 高野山大学
www.aad.rcast.u-tokyo.ac.jp/koyasan/ 題字：添田隆昭
※築野グループ株式会社様、株式会社丸和代表取締役丸山昌三様からご寄附を頂き有難うございました

主管挨拶



東京大学名誉教授・東京大学先端科学技術研究センター
シニアリサーチフェロー 先端アートデザイン分野研究統括

神崎亮平

「高野山会議」は、科学・芸術・哲学・宗教などさまざまな分野の人々、そして地元の人々が一堂に会し、1200年後の世界を見据え、自然と協調・共存し、人間性や倫理性あるよりよい未来のかたちを考え、実践していくことを目的に設立されました。開催にあたっては、東大先端研と連携協定を結ぶ高野山金剛峯寺・高野山大学・高野町・和歌山県、そして地元の橋本市やかつらぎ町の皆様には惜しみないご支援をいただき、本会議の形ができつつあります。今回、橋本市、かつらぎ町とは本会議開催中に連携協定を結ぶ運びとなり、「高野山会議」の活動が地元のみなさんにさらに広がっていくものと期待しています。「高野山会議」はみなさんと一緒につくりあげていく「場」です。しかしながら、これまではコロナ禍の影響で、本会議への参加者は心なくも絞らざるを得ませんでした。今回の「高野山会議2023」からは公開となり、多くの皆さんにご参加いただけるようになりました。これからの私たちの、そして子供たちのよりよい未来のかたちをさまざまな分野の人たちとの対話を通して考え実践していくために、すこしでも多くの方にご参加をいただきたいと思います。そして、このような「場」で心から語り合ったことを高野山から世界に向けて発信し、1200年後まで伝えていきたいと思っています。みなさんと「高野山会議2023」でお会いできることを心より楽しみにしています。

標高800mの山上盆地に真言密教の根本道場として空海が創建した高野山は、2004年7月、「高野山」、「熊野三山」、「吉野・大峯」の三つの霊場とそれらを結ぶ「参詣道」で構成される『紀伊山地の霊場と参詣道』として世界遺産に登録されました。来年は登録20周年を迎えます。

高野山會議

タイムスケジュール

TIME SCHEDULE

7月13日（木）

7月14日（金）

7月15日（土）

7月16日（日）

7:00					7:00
8:00					8:00
9:00					9:00
10:00					10:00
11:00					11:00
12:00					12:00
13:00					13:00
14:00					14:00
15:00					15:00
16:00					16:00
17:00					17:00
18:00					18:00
19:00					19:00
20:00					20:00
21:00					21:00

朝のエクスカーショ ン @根本大塔・壇上伽藍 8:00-8:45

SESSION 02 9:00-11:00
インクルーシブデザイン @金剛峯寺大会議室
統括/東京大学先端科学技術研究センター特任教授 伊藤節
登壇者/東京大学先端科学技術研究センター准教授 並木重宏
筑波大学・札幌市立大学 名誉教授 蓮見孝

11:30-18:00
高野山麓エクスカーショ ン
コースA 橋本市高野口
高野口小学校(重要文化財)～パイル織物工場(妙中パイル織物株式会社)
～旧葛城館(登録有形文化財)

コースB かつらぎ町天野
丹生都比売神社(世界遺産、正式参拝・奉納演奏)
～地域交流センター ゆずり葉
※「エクスカーショ ン」研究活動につき一般の受付はいたしません。

澤クワルテット特別演奏会 19:30-21:00
@金剛峯寺新別殿
演奏/澤クワルテット
曲目/A.ウェーベルン 弦楽四重奏曲(1905)
L.v.ベートーヴェン 弦楽四重奏曲第13番 Op.130「大フーガ付き」

SESSION 03 9:00-11:00
次世代育成～STEAM教育と芸術環境創造～
@金剛峯寺大会議室
統括/ヴァイオリニスト、東京大学先端科学技術研究センター特任教授 近藤薫
登壇者/声楽家、東京音楽大学教授、東京音楽大学付属高等学校長 小森輝彦
横浜みなとみらいホール館長、東京藝術大学客員教授 新井鷗子
株式会社JERA 代表取締役社長 CEO兼COO 奥田久栄

コンサートシリーズ meets @金剛峯寺本坊 11:30-12:15
演奏/東京フィル弦楽四重奏団
曲目/A.ドヴォルザーク 弦楽四重奏曲第12番 Op.96「アメリカ」

13:30-15:00
分科会A @恵光院 宇宙とテクノロジーとデザイン
分科会B @報恩院 自然と共生するまちづくり～里山から聖域・霊場まで～
分科会C @金剛峯寺 包摂社会のためのコデザイン

SESSION 04 15:30-17:30
高野山のまちと人 @金剛峯寺大会議室
統括/東京大学先端科学技術研究センター特任准教授 吉本英樹
登壇者/学校法人高野山学園法人本部長 山口文章
東京大学先端科学技術研究センター教授 小泉秀樹
東京大学先端科学技術研究センター 小泉研究室D3 浦井亮太郎

SESSION 05 9:00-11:00
瞑想：自然と一体化した境地
高野山大学提供講座 @大師教会大講堂
統括/東京大学名誉教授 東大先端研 シニアリサーチフェロー 神崎亮平
登壇者/高野山大学副学長・教授 松長潤慶、高野山学園顧問 乾龍仁
富士通株式会社 デザインセンター クリエイティブディレクター/チーフデザイナー 藤原和博
東京大学特任研究員 中上淳貴

智辯学園和太鼓パフォーマンス @黎明館 12:20-12:35

13:00-15:00
クロージング(高野山宣言2023)
クラシックコンサート @黎明館
演奏/東京フィルハーモニー交響楽団メンバーによる弦楽合奏
曲目/伊福部昭 『日本組曲』より 盆踊り
O.レスピーギ リュートのための古風な舞曲とアリア ほか

先端アートデザイン展示(7月13日～16日) @金剛峯寺別殿

「KOYA」木桶による花器、ワインクーラー 伊藤節・伊藤志信(デザイナー)、中川周士(木桶職人・中川木工芸・比良工房主宰)/2023年 協力:中川木工芸・比良工房、開化堂
「DAWN」 吉本英樹(アーティスト)、株式会社箔一(製作)/2023年 協力:石川県

開
会
式

日時：7月13日(木) 13時00分～13時40分 場所：金剛峯寺新別殿

声明

開会宣言

東京大学先端科学技術研究センター所長・教授 杉山正和

ホスト挨拶

金剛峯寺執行長・高野山真言宗宗務総長 今川泰伸
高野町長 平野嘉也SESSION 00 フラッシュセッション
高野山会議2023の楽しみ方

日時：7月13日(木) 13時45分～14時45分 場所：金剛峯寺新別殿

進行：東京大学名誉教授・東京大学先端科学技術研究センター シニアリサーチフェロー
先端アートデザイン分野研究統括 神崎亮平

セッション概要

はじめに、「高野山会議2023」全体を俯瞰して、高野山会議の背景や意義、4日間の見どころ、聴きどころをフラッシュでお伝えします。

はじめに 先端研のこと、高野山会議のこと、高野山会議への思い

Day1 SESSION 01 伊藤志信

Day2 SESSION 02 伊藤節

Day3 SESSION 03 近藤薫

SESSION 04 吉本英樹

Day4 SESSION 05 神崎亮平、松長潤慶

高野山宣言

SESSION 01 和の芸術とデザイン

THINKING WITH NATURE 統括：伊藤志信

日時：7月13日(木) 15時00分～17時00分 場所：金剛峯寺大会議室

和 / 芸術とデザイン / ネイチャーセンタード / サステナビリティ / 匠

セッション概要

このセッションでは、東西、日本とイタリアからそれぞれゲストスピーカーをお招びして、和の芸術とデザイン__THINKING WITH NATUREについて議論していきます。

日本思想の芸術とデザインは、“日本の宗教観”が大きく影響しているのではないかと思います。

日本には、信仰と自然との関わりの中で生まれてきた素晴らしいアートデザインが数多くあります。

AAD主幹である神崎亮平先生から、宗教哲学、スピリチュアルを包括したアートデザイン分野を設立したいとお話があった時、日頃のイタリアでのデザイン活動の中で感じていた、日本人の芸術感性は日本人のもつ自然観、宗教観に深く関わりがあり、私達のデザインの世界にもそこが非常に重要であると共感しました。物質中心の拡張主義から解放された現在、大量生産大量消費時代の終わりに考えるべきこれからの芸術とデザインとは何でしょうか？ 現在、私たちは生産に対する考え方を変える技術革命の真只中にいます。IoT、ビッグデータ、AI、ロボティクス等の新しいITテクノロジー優先時代に、芸術デザインに対して別の流れが出てきました。それは、都市計画、建築、農業、食品生産等、様々な分野にも広がる持続可能な循環型社会を重視する動きです。その中で芸術デザイン分野で注目されるのが、手とコミュニケーションから生み出されるクラフトマンシップ、伝統技術と革新性の融合、メイドバイハンド思考です。科学技術の発展は世の中を便利にしましたが、時に人を不安にさせてきました。匠の持つ癒し、歴史と伝統から得る安心感とは何なのでしょう？ そこに和の思想の鍵があると考えています。環境にあった暮らしを導く、対立ではなく共生を導くアートデザインの必要性です。

日本の木桶の技術で伝統工芸からアート作品まで幅広く制作をする匠、中川周士さんにご登壇いただきます。未来につながる日本の芸術とデザインとは何なのでしょう？

数々の日本に関する展示会のキュレーションを手がけ、数多くの著書を執筆され、ヨーロッパの中でも日本のアートデザイン研究の第一人者であるミラノ大学准教授のRossella Menegazzo先生に、ご自身の経験を通して、海外から見た日本のアートデザインについてご講義いただきます。

最後に伊藤志信が、自身の作品制作を通して感じた和の思想とは何かをお話します。

日本人である私がイタリアにおいてデザインを行っていく中で、日本にいる時以上に和を意識させられる事が多くあります。日本では当たり前のように使っているデザイン言語も、世界に出るとオリジナリティの高い評価を受けることがあります。そのキーを探っていきます。

「1200年後の世界」とのかかわり

1200年後の私たちの環境と生活、文化はどう変わっているのでしょうか。それは、産業革命以降の100年余を総括して、我々の世界を変革する持続可能な開発や、今後の私たちの思想とその行動が反映されていくでしょう。

芸術デザインという視点を通して、物質中心の拡張主義から解放された、日本の新たな文化の方向性を考察します。

【ホスト & ゲスト】伊藤志信 / 中川周士 / Rossella Menegazzo

木桶デモンストレーション

日時：7月13日(木) 17時30分～17時50分 場所：黎明館

形の違った自然の木片が完璧な器へ。匠木工熟練士、中川周士氏による和のフレキシビリティの実演。

【ホスト & ゲスト】 伊藤志信 / 中川周士

高野山会議 2023 公式レセプション

日時：7月13日(木) 18時00分～20時00分 場所：高野山大学 黎明館ロビー

ホスト挨拶

和歌山県知事 岸本周平

金剛峯寺第524世寺務検校執行法印・高野山大学長 添田隆昭

ウエルカムブース

先端研と連携している地元から地域産品の試食や地域の紹介などコミュニケーションのためのブースを設置します。たくさんの皆様に高野山をはじめ高野山麓地域、和歌山県の魅力を伝えます。

協力自治体

高野町 町長 平野嘉也

橋本市 市長 平木哲朗

かつらぎ町 町長 中阪雅則

和歌山県 知事 岸本周平

協賛・協力

〔橋本市〕

紀州繊維工業協同組合

農事組合法人くにぎ広場・農産物直売交流施設組合

紀州製竿組合

〔かつらぎ町〕

OUTDOOR LIFE STYLE Orange

紀州食品株式会社

DAY2

朝のエクスカッション

日時：7月14日(金) 8時00分～8時45分 場所：根本大塔-壇上伽藍

高野山の大切な道場であり世界遺産の中心的エリアのひとつ「壇上伽藍」をご案内いただきます。

【ご案内】 高野山執務公室長 弘法大師御誕生1250年記念大法会事務局長 戴邦彦

SESSION 02

インクルーシブデザイン

統括：伊藤節

日時：7月14日(金) 9時00分～11時00分 場所：金剛峯寺大会議室

社会的包摂 / ダイバーシティ / バリアフリー / 当事者研究 / ユニバーサルデザイン

セッション概要

東京大学先端科学技術研究センターに新しく生まれた先端アートデザイン分野では「Nature-Centered and Inclusive Society」をメインテーマとし、科学技術と宗教哲学、アートデザインが同時進行する新しい「和」のクリエイティビティを目指しています。これは多岐に渡る領域の研究者が連携する先端研全体の共通テーマにもなっています。ここでいう「和」の創造性とは、西洋中心のこれまでの科学技術発展史の中での人間中心の個＝「差」の解に対して、様々な分野の知識や経験を合わせる「和」の解を求めるという意味であり、同時に森羅万象、自然との共生を常に目指してきた東洋思想、日本ならではの「和」の解を求めていくことも意味しています。これは長年に渡る西洋と東洋のデザイン比較研究の実体験の中で見出してきた未来のデザインが目指すべき方向性でもあります。

私たちが目指すこの「和」の創造性であるところのネイチャーセンタードデザインとは、人間を含めた自然界の様々な個、個々の生物の生命やその体系を包摂する社会を目指したデザインという意味でもあります。第一次産業革命以降の工業化の流れの中で人類のものづくりは効率的で画一的な方向を目指してきました。個々の生命を大切に作るものづくりの中では、個性を尊重することが重要になってきます。個々の個性を尊重するためには、個々を差異化、差別化していくのではなく、個々の力を合わせて全ての個を包摂していくことを目指す必要があります。皆がそれぞれに情報発信できる今の社会では個が一人歩きして、本来は自然や人同士の触れ合いを通して育まれるべき個々の感性が、無機質でバラバラで互いに尊重されない差別化に向かっている気がします。皆が触れ合い協力し合いそれぞれの個に合わせたものやシステムを一緒に考え生み出していく、「インクルーシブデザイン」はそのための有効な方法論だと考えます。

先端研先端アートデザイン分野ではその柱の一つとして、先端研のユニークな研究組織であるバリアフリー分野と共同してインクルーシブデザイン研究を進めています。本セッションでは、ゲスト登壇者として先端研バリアフリー分野でインクルーシブデザインラボを主催される生物学者の並木重宏准教授、そして日本のユニバーサルデザイン、インクルーシブデザイン研究の第一人者で元日産自動車チーフデザイナー、筑波大学及び札幌市立大学名誉教授の蓮見孝先生をお招きしパネルディスカッションを行います。多様性を包摂する未来の社会づくりに向けた、全員参加型のインクルーシブデザインという新しい「和」のクリエイティビティのあり方について、会場に集う様々な分野の皆さんを交えて議論したいと思います。

「1200年後の世界」とのかかわり

2400年前ギリシャのプラトンに始まり、600年前にレオナルド・ダ・ヴィンチが継承してきた西洋的科学技術の発展、そしてここ200年に体験してきた4つの産業革命を通して、現代の私たちの社会は科学技術の大きな発展の恵みとともに、人間中心の科学技術がもたらした自然体系破壊による人類存続の危機をも孕んでいます。1200年前に高野山の空海が説いた宇宙や自然と一体化する東洋思想の人のあり方は、今後600年、1200年、2400年後の人間社会を持続継続していくための大きな指針となります。未来の人材や社会を構築していく教育やデザインにおいても、人を含めた自然界の多様性あふれる個性を互いに尊重し、みんなで協力し合って包摂的な人材や社会を育成、デザインしていくことが求められます。

【ホスト & ゲスト】 伊藤節 / 並木重宏 / 蓮見孝

高野山麓エクスカッション

コース A 橋本市高野口 日時：7月14日(金) 11時30分～18時00分
高野口小学校(重要文化財)～パイル織物工場(妙中パイル織物株式会社)～旧葛城館(登録有形文化財)

- ・連携協定式 橋本市×先端研 於 高野口小学校
- ・ワークショップ「地域産業の未来」 於 同上

【スピーカー】橋本市長 平木哲朗、紀州繊維工業協同組合理事長 杉村泰久 他

コース B かつらぎ町天野 日時：7月14日(金) 11時30分～18時00分
丹生都比売神社(世界遺産、正式参拝・奉納演奏)～地域交流センター ゆずり葉

- ・連携協定式 かつらぎ町 × 先端研 於 丹生都比売神社 拝殿
- ・地域食材によるBBQと生産者との交流会 於 地域交流センター ゆずり葉
- ・ワークショップ「薔薇と神社と地域振興」 於 同上

【スピーカー】かつらぎ町長 中阪雅則、丹生都比売神社宮司 丹生晃市 他

【奉納演奏】第一ヴァイオリン 近藤薫、第二ヴァイオリン 戸上眞里、ヴィオラ 須田祥子、チェロ 広田勇樹

澤クァルテット特別演奏会

日時：7月14日(金) 19時30分～21時00分 場所：金剛峯寺新別殿

澤クァルテット

1990年11月の結成以来、現在に至るまで一人のメンバー交代もなく、不動のメンバーで春・秋のツアーを中心に充実した活動を展開する、日本屈指の弦楽四重奏団。

【プログラム】

- A. ウェーベルン 弦楽四重奏曲(1905)
- L.v. ベートーヴェン 弦楽四重奏曲第13番 Op.130「大フーガ付き」

【出演】第一ヴァイオリン 澤和樹、第二ヴァイオリン 大関博明、ヴィオラ 市坪俊彦、チェロ 林俊昭
※招待者のみ

DAY3

SESSION 03 次世代育成 ～STEAM教育と芸術環境創造～ 統括：近藤薫

日時：7月15日(土) 9時00分～11時00分 場所：金剛峯寺大会議室

教育 / 芸術 / 音楽

セッション概要

盛者必衰の理のように、豊かに見える社会ほど閉塞感に見舞われ、生物内でエントロピーが増大していくように社会そのものが衰退していく—これは、社会を体系的にシステムチックにデザインする概念が運命的に陥る「価値観の収束」に端を発します。皮肉なことに、成熟した安定した社会を望むほどにシステムは強固になり価値観はより収束され、新陳代謝が滞り、多様性を失い、自らの社会が生み出した問題を自らで解決できなくなってしまう。

これに対抗するのが芸術です。芸術は、人類が文明・文化を築きあげていく中で常に重要な役割を果たしてきました。むしろ、ほとんど本能的な美の追求が、文明・文化の芯のように振る舞い、社会性の中で芸術として昇華された、または芸術が社会性を生み出してきたと言えるかもしれません。また、少なくとも同じ文明・文化の上では芸術のバトンが繋がり、紡がれてきており、時には時間と空間を超えて異なるもの同士、異なる価値観同士を結びつける重要な役割を果たしてきました。

芸術は平和的に社会を変革しうるもの(少なくとも直接的には)であり、負のエントロピーであり、多様性そのものです。バチカンもハプスブルグ家も豊臣秀吉も、時の施政者たちが芸術を手元に置きたがったのは、その力を理解していたからでしょう。さて、社会システムを構築していく上で重要な基礎となるのは「教育」です。今回のセッションでは、株式会社JERA代表取締役社長CEO兼COOの奥田久栄氏より基調講演をしていただき、そして芸術を取り入れた教育＝「STEAM教育」について声楽家で東京音楽大学付属高校校長の小森輝彦先生に、育てることは環境を創ることであるという観点から「芸術環境創造」について『横浜みなとみらいホール』館長で東京藝術大学客員教授の新井鷗子先生にご登壇いただきます。

「1200年後の世界」とのかかわり

1200年後の世界を考えるには、自らがその世界の当事者である必要があります。密教の教えである「一即多 多即一」は、物質世界における自と他だけでなく、精神世界の自と他をも融和します。物質は有限ですが、精神は無限たる術を持ちます。その一つが芸術であり、それは蓮華と蓮根のように世界に現れます。蓮華と蓮根が常に一体である自覚を促すことを“教育”とします。

【ホスト & ゲスト】近藤薫 / 小森輝彦 / 新井鷗子 / 奥田久栄

コンサートシリーズ meets

日時：7月15日(土) 11時30分～12時15分 場所：金剛峯寺本坊

【プログラム】A. ドヴォルザーク 弦楽四重奏曲第12番 Op.96「アメリカ」

【出演】第一ヴァイオリン 近藤薫、第二ヴァイオリン 戸上眞里、ヴィオラ 須田祥子、チェロ 広田勇樹
※予約不要

先端アートデザイン分科会

日時：7月15日(土) 13時30分～15時00分

会場A：宿坊 恵光院

テーマ：宇宙とテクノロジーとデザイン 主管：吉本英樹

会場B：宿坊 報恩院

テーマ：自然と共生するまちづくり～里山から聖域・霊場まで～ 主管：近藤薫

会場C：金剛峯寺会議室

テーマ：包摂社会のためのコデザイン 主管：伊藤節

先端アートデザイン展示

日時：7月13日(木)～16日(日) 場所：金剛峯寺別殿

「KOYA」木桶による花器、ワインクーラー

伊藤節・伊藤志信(デザイナー)、中川周士(木桶職人・中川木工芸・比良工房主宰) / 2023年

ネイチャーセンタードesignをコンセプトに、自然の創り出した造形に寄り添いながら、熟練木工職人の匠の技を融合させた、高野槇による三つの器
協力：中川木工芸・比良工房、開化堂

「DAWN」

吉本英樹(アーティスト)、株式会社箔一(製作) / 2023年

金沢が誇る箔の伝統と、最先端の特殊レーザー加工技術の組み合わせにより実現した、光と箔の唯一無二の芸術作品。
協力：石川県



高野山会議2022 蟠龍庭をのぞむ別殿でのアート展示の様子、四季の花を描いた襖絵との調和が注目を集めた

SESSION 04 高野山のまちと人 統括：吉本英樹

日時：7月15日(土) 15時30分～17時30分 場所：金剛峯寺大会議室

まちづくり / 地域コミュニティ / 伝統文化 / 教育

セッション概要

開創1200年を超えて、なお現在進行形で進化しつづける宗教都市、高野山—アカデミックな視点から高野山を語るとき、当然のことながら、仏教・密教の教え、ということは中心的なテーマになりますが、このセッションでは、その高野山を「まち」としての側面から捉え、四季折々の中に見られる高野山ならではの風景、そこに暮らす人々の生活、高野山のまちに息づいてきた伝統文化、それらを次代へと繋いでいく子供たちの教育、などのポイントを中心に、議論します。

一山境内地、高野山全体が総本山金剛峯寺という一つのお寺であるという構造の中で、その「お寺」の中には、宗務に直接的に関わらない沢山の人々も暮らしています。そこには高野山独自に発展してきた伝統文化—様々なものづくりや、食、華道、書道などの有形無形の受け継がれてきたもの—があり、また欧米を中心に世界中から熱心な観光客が集まる大観光都市の一面があり、地元の子供たちのための教育があり、インフラがあり、行政があります。そして、そのように宗務に直接的に関わっていない人々もまた、弘法大師様に思いを寄せ、その求心力によって高野山というまちが、他のどの都市とも違う、唯一無二の性格をもったものを形づくっているのだらうと感じます。このまちや、コミュニティには、非常に独特な関係性や時間軸があります。まちと人々という視点から、高野山の中身に迫り、専門家の皆さんとディスカッションを展開していきます。

ゲストスピーカーとしてご登壇頂くのは、高野山報恩院住職、学校法人高野山学園法人本部長を務められ、『新・高野百景』の著者としても知られる山口文章氏、東京大学まちづくり研究室教授で、当該分野で日本を代表する研究者である小泉秀樹氏、東京大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻博士後期課程3年生で小泉秀樹氏の研究室に所属する浦井亮太郎氏の3氏です。僧侶、まちづくり研究者、教育者、デザイナー、そして現地の住民としての目線を掛け合わせながら、新たな気づきを探っていきます。このセッションを終えたあと、聴講して頂いた皆さんが高野山のまちを歩いた時、目に入ってくる風景に対して感じるものが、ぐっと深まり、高野山にまた新しい魅力を発見できるような、そのようなセッションになればと思います。

「1200年後の世界」とのかかわり

1200年という時間軸で一つの「まち」について考えてみると、人も変わり、政治も変わり、まちの輪郭・領域も変わり、まちの姿は大きく変わっていくものでしょう。対して山上という孤高の台地において、弘法大師という一人の絶対的なカリスマのもとに1200年のあいだ祈りが捧げられ続けてきた高野山という場所は、他とは異なるまちの性格が育ってきているのだらうと感じます。それを議論することは、そのように非常に長いタイムスパンでの未来を想像し、変わらないもの、変えてはいけないものは何かということについて、思案するためのヒントを得られるのではないかと考えます。

【ホスト & ゲスト】 吉本英樹 / 山口文章 / 小泉秀樹 / 浦井亮太郎

SESSION 05 瞑想：自然と一体化した境地 統括：神崎亮平

日時：7月16日(日) 9時00分～11時00分 場所：大師教会大講堂

瞑想 / 空海 / 瑜伽 / メタバース / DAO

セッション概要

いま時代は大きく動き、“物”や“ところ”もそのかたちを変えつつあります。私たち人類は自然を利用することでおおきな恩恵を受けてきました。しかし、これまでの自然の過剰な利用や負荷により、資源やエネルギーの枯渇、さらには環境破壊による異常気象など地球規模の課題を生み出しています。人類の安寧を未来まで持続させていくためには、これまでのように人間を中心に自然を利用するのではなく、人も自然の一部であり、自然のなかのあらゆるものとの関係の中でわたしたちは生かされているという、自然を中心とした視座の転回が必要となっています。

先端アートデザイン分野では、人間を中心とした視座から、自然を中心とした視座に転回することで、普遍的な価値をもつモノやコトが生まれ、本来人がもつ“ところ”に気づくことができると考えています。これは空海的な世界観に相似し、多様性や包摂性が求められる現在の複雑な社会における課題解決におおきな意味を持ちます。また、人が本来持つ「ところ」のありかたを見つめなおすうえでも大切です。

このような考えを実践するため、高野山大学と先端研先端アートデザイン分野では、「マンダラプロジェクト」を立ち上げ、約1200年前に空海が体得した世界観を瞑想（自然と一体化した瑜伽の境地）を通して、現代社会に生命を営む人類が体験することで、自然とつながり、生命の大切さを感じ、人本来の「ところ」に気づくことで、Well-Beingな社会の実現に向けた発信を目指しています。

このプロジェクトではまた、あらゆる方が自然と一体化する世界観を体験できるきっかけをつくるため、仏教的、また瞑想的世界をメタバースを通して構築し発信することを目指しています。

このセッションでは、「マンダラプロジェクト」を紹介するとともに、本プロジェクトの発案者であり、密教学を専門とする高野山大学副学長・教授 松長潤慶氏と、高野山学園顧問 乾龍仁氏のお二人に「瞑想」についてのお話をいただくとともに、このような世界観のメタバース世界において表現する現状、課題などについて、富士通株式会社 藤原和博氏にご紹介いただきます。その後、仏教学、文化人類学がご専門で、現代における瞑想文化について研究されている東京大学中上淳貴氏も交え、パネルディスカッションを通して、空海の世界観を「瞑想」を中心に多角的に議論していきます。

「1200年後の世界」とのかかわり

人類の安寧はもちろんですが、その安寧を持続的に未来までつづけていくことがもっと大切です。人類に恩恵をもたらしてきた自然を単に利用するのではなく、人も自然の一部であり、自然のあらゆるものとの関係のなかで生かされているという“ところ”の気づきが重要です。そのような“ところ”は実は、私たちが奥底にもともとある“変わらないもの”のはずではないでしょうか。本来人がもつこの“ところ”に気づくことで、人間性、倫理性ある未来のすがたが、そしてなによりも未来を担う子供たちになにをすべきかが自ずと見えてくるものと思います。このような気づきをおこす活動をつなぎ1200年つづけていくことが大切です。

【ホスト & ゲスト】 神崎亮平(ファシリテータ)、松長潤慶、乾 龍仁、藤原和博、中上淳貴

クロージング&コンサート

日時：7月16日(日) 13時00分～15時00分 場所：高野山大学黎明館

オープニングアクト

(12時20分より黎明館ステージにて)

智辯学園中学校・高等学校 和太鼓部によるパフォーマンス

ホスト挨拶・総評

東京大学先端科学技術研究センター所長・教授 杉山正和

高野山宣言2023

クラシックコンサート

【プログラム】

伊福部昭 『日本組曲』より 盆踊り

O.レスピーギ リュートのための古風な舞曲とアリア ほか

【出演】

演奏：東京フィルハーモニー交響楽団 弦楽アンサンブル

コンサートマスター：近藤薫

東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター

東京大学先端科学技術研究センター特任教授



高野山会議2022コンサートの様子

高野山會議

KOYASAN CONFERENCE 2023

高野山大学副学長・教授
松長潤慶

1996年高野山大学文学研究科博士後期課程密教学専攻終了博士(密教学)。2015年高野山大学文学部密教学科准教授。2018年 高野山大学文学部密教学科教授。2021年高野山大学副学長(現在に至る)。専門は密教学、密教図像学。

東京大学名誉教授・東京大学先端科学技術研究センターシニアリサーチフェロー 先端アートデザイン分野研究統括
神崎亮平

筑波大学大学院生物科学研究所博士課程修了。筑波大学生物科学系教授を経て、2004年より東京大学大学院情報理工学系研究科教授。2006年東京大学先端科学技術研究センター教授。同センター所長(2016-2022)。2023年より東京大学名誉教授、先端研シニアリサーチフェロー。ミラノ・ビコッカ大学名誉学位、和歌山県文化賞などを受賞。日本比較生理生化学会会長、JST次世代科学技術チャレンジプログラム推進委員長(2023-)、JST戦略的創造研究推進事業(さきがけ)「多感覚システム」研究総括(2021-)などを歴任。

東京大学先端科学技術研究センター特任准教授
伊藤志信

デザイナー。ミラノ工科大学特任教授、多摩美術大学客員教授、東京大学先端科学技術研究センター特任准教授。プロダクトから空間、先行開発まで多岐にわたるデザインを行い、数多くの作品を発表、またデザインコンサルタントを行っている。世界各地の数多くの展示会に参加、多くの媒体に作品が掲載されている。"Woman Made, great woman designers" 掲載。IF design/独、ゴールドコンパス/伊、Reddot Award/独、等多くの国際デザイン賞を受賞。2019年の空間作品により「Mastro d'arte della pietra」の称号を授与される。

中川木工芸・比良工房主宰(木桶職人)
中川周士

1968年京都市生まれ、1992年京都精華大学美術学部立体造形卒業。父清司(重要無形文化財保持者2001年認定)に師事 木工の道に入る。2003年滋賀県大津市に自身の工房中川木工芸比良工房を開く。2012年伝統工芸ユニットGOONに参加。KI-OKESツールが、ビクトリア&アルバートミュージアム、パリ装飾美術館の永久コレクションになる(2016/2017)。2017年ロエクラフトプライズファイナリスト。2021年和文化グランプリ・グランプリ受賞。2022年創造する文化賞受賞。

学校法人高野山学園法人本部長
山口文章

京都府立大学大学院農学研究科林学専攻博士課程単位取得退学。総本山金剛峯寺職員、高野町教育長、高野山真言宗山林部長、高野山真言宗総長公室長、高野山開創1200年記念大法会事務局長、高野山霊宝館長等を経て、現在、高野山報恩院住職、学校法人高野山学園法人本部長。主な著書に「新・高野百景」其の巻〜参(教育評論社、2006-2010)がある。

声楽家、東京音楽大学教授、東京音楽大学付属高等学校長
小森輝彦

東京藝術大学、同大学院、文化庁オペラ研修所で学ぶ。文化庁在外研修員としてベルリンに留学。プラハ国立歌劇場「椿姫」ジェルモンで欧州デビュー後、アルテンブルク・ゲラ市立劇場専属歌手として12年活躍し、演じた役は70を超える。帰国後も流麗な歌唱と強い存在感で数多くの主役を務めている。「R.シュトラウス歌曲集」はレコード芸術誌で準特選盤。日本人初のドイト宮廷歌手。東京音楽大学教授。東京音楽大学付属高等学校長。二期会会員。

学校法人高野山学園顧問、AADアドバイザー
乾龍仁

1952年生まれ。明治大学政治経済学部を卒業後、高野山大学文学部密教学科に編入学し、同大学院修士課程を経て、博士課程を単位取得退学(1984.3)。密教文化研究所助手、講師を経て、同大学文学部密教学科の助教授、教授となり、文学研究科長、副学長、学長(2017.4〜2021.3)を歴任する。現在、高野山大学名誉教授、高野山学園顧問。専門は密教学で、密教経典の「金剛頂経」や金剛界曼荼羅に関する論文が多い。

東京大学先端科学技術研究センター特任教授
伊藤節

筑波大学大学院芸術研究科修了。1995年ミラノにデザイン会社を設立。建築、インテリアからプロダクト、クラフトまで多岐にわたるデザインを手掛け、作品はミュンヘンとミラノの近代美術館に永久収蔵されている。ゴールドコンパス賞(2011伊)、Reddot Best of the Best 賞(2016独)、iF Design賞(2022独)、Good Design賞(2018、2022米)など多くの国際デザイン賞を受賞。ドムスアカデミー、ベネツィア大学、ミラノ工科大学特任教授、筑波大学芸術系教授、東京大学先端科学技術研究センター特任教授。

東京大学先端科学技術研究センター特任准教授
吉本英樹

東京大学工学部航空宇宙工学科、同修士課程修了。その後渡英し、2016年英国 Royal College of Art, Innovation Design Engineering 学科博士課程修了。2015年にロンドンで Tangent Design and Invention Ltd 創業。2020年より東京大学先端科学技術研究センター特任准教授。工学とデザインのハイブリッドな分野で活躍し、両分野で受賞多数。自身のスタジオ「TANGENT」では、多国籍なチームを率い、世界的な高級ブランドを顧客に、プロダクト開発から展示会ディレクションまで様々なデザインプロジェクトを手がける。2021年和歌山県文化奨励賞を受賞。

東京大学先端科学技術研究センター准教授
並木重宏

東京大学先端科学技術研究センター准教授。筑波大学で生物学の博士号を取得した後、米国ハーワードヒューズ医学研究所において動物飛行の研究に従事する。この間神経難病が進行して帰国、長期間の入院の後、車椅子を使って大学に復帰する。東京大学着任後はバリアフリー分野への関心から、インクルーシブデザインラボラトリーを立ち上げ、実験室のアクセシビリティに関わる研究に取り組んでいる。

東京大学先端科学技術研究センター教授
小泉秀樹

東大まちづくり研究室教授、東大まちづくり大学院コース長、日本都市計画学会専務理事。専門は、都市計画、まちづくり。研究成果をふまえ各地で都市計画、まちづくりの実践に取り組む。グッドデザイン賞など受賞多数。編著に「コミュニティデザイン学」(東大出版、2016)、「都市地域の持続可能性アセスメント」(学芸、2015)など。近年は、渋谷未来デザイン代表理事、アーバンリスト理事長として共創まちづくりを推進している。

横浜みなとみらいホール館長、東京藝術大学客員教授、AADアドバイザー
新井鷗子

東京藝術大学音楽学部楽理科および作曲科卒業。NHK教育番組の構成で国際エミー賞入選。これまでに「題名のない音楽会」「東急ジルベスターコンサート」等の番組の構成を務める。東京藝術大学にてインクルーシブアーツ研究に携わり、一本指で弾ける楽器「だれでもピアノ®」を開発。著書に「おはなレクシック」(アルテスパブリッシング)、「音楽家ものがたり」(音楽之友社)等。「横浜音楽祭」総監督、横浜みなとみらいホール館長。

富士通株式会社 デザインセンター クリエイティブディレクター/チーフデザイナー
藤原和博

1995年東北工業大学工業意匠学科卒業。2022年より先端アート講座研究員。2001年より富士通株式会社で自社製品のプロダクトデザイン、ブランディングを行い、その後、クライアント企業向けの新規事業創出支援、VRコンテンツ開発、クラウドファンディングによるテストマーケティング、デザイン思考の社内浸透などを手掛ける。現在はどうしたらITテクノロジーがこの世界の調和に貢献できるのかを探索中。

ヴァイオリニスト、東京大学先端科学技術研究センター特任教授
近藤薫

東京藝術大学をアカンサズ賞を受賞して卒業後、同大学院修士課程修了。東京フィルハーモニー交響楽団およびFuture Orchestra Classics コンサートマスター、バンクーバー・メトロポリタン・オーケストラ首席客演コンサートマスター、リヴァラン・弦楽四重奏団主宰。東京大学先端科学技術センター先端アートデザイン分野特任教授。東京音楽大学、洗足音楽大学講師。JST「さきがけ」領域運営アドバイザー。東京フィル創設時のコンサートマスター近藤富雄は祖父で、三世に渡ってヴァイオリニスト。愛知県出身。

ミラノ大学准教授、AADアドバイザー
Rossella Menegazzo

ミラノ大学東洋美術史准教授、東京大学先端科学技術研究センターAADアドバイザー。ヴェネツィア、カ・フォスカリ大学で東洋学博士号取得。イタリアをはじめ諸外国の美術館で日本美術・写真・デザイン分野の展覧会をキュレーション、刊行物を執筆、数多くの国際シンポジウムを主催する。2018/ 2022年ミラノ大学にて日本美術デザイン国際シンポジウムを開催。主な著書は、IROとWA、ファインド社。2016年日本国内閣府クール・ジャパン・アンバサダー就任。2017年日本国外務大臣表彰受賞。

筑波大学名誉教授、札幌市立大学元理事長・学長、現名誉教授
蓮見孝

1948年鎌倉市生まれ。1971年東京教育大学卒。日産自動車(株)デザインセンター(1971〜1991)、RCA(ロンドン)社留学。筑波大学(1991〜2012)、札幌市立大学理事長・学長(2012〜2018)。国立環境研究所で次世代EVの研究・開発(1995〜2002)。「車椅子は未来ののりもの」とのインスピレーションを得る。病院の医療環境を改善するアート&デザイン活動を推進、NPOチアア理事。ユニバーサルデザイン、インクルーシブデザインの研究・著書「ボスト「熱い社会」をめざすユニバーサルデザイン」他。ソーシャルデザインの観点から多様な地域プロジェクトを推進・著書「地域再生プロデュース」他。

東京大学先端科学技術研究センター 小泉研究室D3
浦井亮太郎

近畿大学建築学部建築学科卒業、九州大学大学院人間環境学府都市共生デザイン専攻修士課程修了。現在、東京大学大学院工学系研究科先端際工学専攻博士後期課程に在籍。大学4年生時、高野山を題材とした建築設計作品を制作し、高野町にて1ヶ月間展示。修士課程時に、高野山中学校にて教員との協働で「ふるとさ学習」の実践・研究を始め、現在に至るまで4年間、学習指導員として次世代育成に携わっている。和歌山県橋本市出身。

株式会社JERA 代表取締役社長 CEO兼COO
奥田久栄

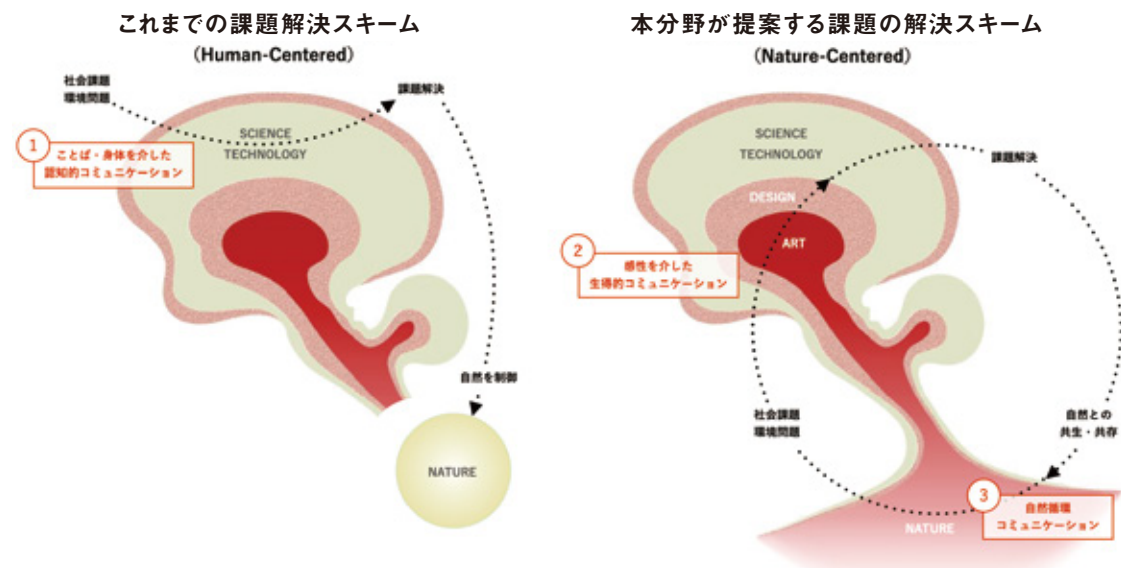
中部電力株式会社側のキーパーソンとしてJERA設立における経営の枠組み作りに注力し、同社への火力発電事業の統合と統合後の新たなビジネスモデルの創出を主導した。同社の経営戦略・企画・調査・技術開発・広報等を担務し、世界のエネルギー市場に新しい価値を生み出す企業展開に従事。2023年4月から現職。

東京大学特任研究員
中上淳貴

東京大学大学院人文社会系研究科インド哲学仏教学研究室、ムーンショット型研究開発事業(MS9) 特任研究員。専門は、仏教学、文化人類学。自然と文化のインターフェイスについて、現代思想、死生学、仏教学から翻訳論、瞑想論、芸能論に至るまで幅広い視点から探求している。仕舞と語を故野村幻雪師より学ぶ。

「先端アートデザイン分野」 「最適解」だけではなく「多角的な解」を

複雑化する社会課題には、科学技術が導く局所的な最適解や西洋の対処療法的な問題解決だけでは対処できなくなっています。モノづくり（科学技術）は、職人、機能の時代を経て、人間主義（Human-Centered）へと進化し、多くの糧を人類にもたらしました。一方で、予期せぬ地球規模の社会問題を引き起こしています。多様な人からなる複雑な社会では、未来の人類や環境、地球を見据えた、自然を中心とする「Nature-Centered」でインクルーシブな社会の実現を目的とする、新しいメソッドが必要です。先端アートデザイン分野は、自然と一体化する日本人の精神、他を慮る心を原点に、科学技術、アート、デザインを融合した「Nature-Centered」な世界を追求し、多角的でハイブリッドな解を創出します。



Nature-Centeredの追求 ～科学技術、アート、デザインの 融合世界とは？

人を中心としたHuman-Centeredな課題解決から、科学・技術(①)とアート・デザイン(②)を包摂することで、自然と共生・共存するNature-Centered(③)な課題解決へと視座を転回し、真のインクルーシブ社会の実現を目指します。

シンボルについて



古代ギリシアの著名な研究者たちが集った多種多様な知の融合を象徴する「アテナイの学堂」と、仏教の世界において大切な意味を秘めている和を示す「丸窓、円」、Nature-Centeredの「N」とInclusiveの「I」を組み合わせ、「和」をもって持続的なインクルーシブ社会を創造することを表現しました。

Design ©Shinobu Ito

第一線のアートデザイン実践者 先端アートデザインラボ教員陣



東京大学名誉教授
東大先端研 前所長
神崎亮平
シニアリサーチフェロー



Setsu & Shinobu ITO
共同代表
伊藤節
特任教授



Setsu & Shinobu ITO
共同代表
伊藤志信
特任准教授



東京フィルハーモニー交響楽団
コンサートマスター
近藤薫
特任教授



TANGENT 創業者
吉本英樹
特任准教授

連携協定機関

高野山真言宗総本山金剛峯寺
高野山大学
和歌山県・和歌山県高野町
ミラノビコッカ大学
ミラノ工科大学
東京フィルハーモニー交響楽団

パートナー企業〔社会連携研究部門〕

株式会社資生堂
住友商事株式会社
ソニーグループ株式会社
日本たばこ産業株式会社
マツダ株式会社

ヤマハ株式会社
株式会社リクルート
BLBG株式会社
日本電気株式会社
富士通株式会社

〔共同研究〕

凸版印刷株式会社
朝日インテック株式会社

AADアドバイザー

新井 鷗子 (横浜みなとみらいホール館長 東京藝術大学客員教授)
Stefania Bandini (人工知能研究者 ミラノビコッカ大学教授)
Stefano Giovannoni (デザイナー Giovannoni Design 社代表)
Ashley Hall (デザイン研究者 ロイヤルカレッジオブアート教授)
原田 則彦 (カーデザイナー Zagato 社デザイン担当副社長)
長谷川 豊 (MY-THOUGHTS代表 元ソニークリエイティブセンター長)
久石 譲 (作曲家 指揮者 ピアニスト)
Vincenzo Iavicoli (College for Creative Studies デトロイト校教授)
乾 龍仁 (学校法人高野山学園顧問)
石井 大輔 (ソニーグループ(株)ソニークリエイティブセンター長)
石丸 恭一 (東京フィルハーモニー交響楽団専務理事/楽団長)
勝沼 潤 (日本電気株式会社 Chief Design Officer)
川田 学 (ヤマハ株式会社デザイン研究所所長)
河口 洋一郎 (アーティスト 東京大学名誉教授)
隈 研吾 (建築家 東大特別教授・名誉教授)
Birgit Lohmann (デザイナー デザインブーム創業者)
前田 育男 (マツダ株式会社シニアフェロー)
Rossella Menegazzo (ミラノ大学文化環境学部准教授)

Jeff Mills (ミュージシャン 作曲家 DJ)
信藤 洋二 (資生堂クリエイティブ(株)シニアクリエイティブディレクター)
大野 和士 (指揮者 新国立劇場オペラ部門芸術監督)
大沼 信一 (UCL ユニバーシティカレッジロンドン教授)
大瀧 裕樹 (日本たばこ産業株式会社 D-LAB 部長)
Marc Sadler (デザイナー ラッフルズミラノ校ディレクター)
佐藤 恵子 (キュレーター)
塩見 直輔 (株式会社リクルート執行役員)
添田 隆昭 (金剛峯寺第524世寺務校執行法印・高野山大学長)
杉浦 滋彦 (美術研究家 企業経営者)
竹中 英介 (住友商事株式会社執行役員 経営企画部長)
辻井 伸行 (ピアニスト 作曲家)
宇田 哲也 (富士通株式会社デザインセンター長)
Patricia Urquiola (デザイナー Patricia Urquiola社代表)
山田 和樹 (指揮者)
吉田 都 (バレリーナ 新国立劇場舞踊部門芸術監督)
Francesco Zurlo (ミラノ工科大学デザイン校副校長/教授)

(敬称略・姓のアルファベット順)